

2022年11月8日

各位

三井住友信託銀行株式会社

日本電気硝子による京都大学への寄附講座「ガラス基礎科学講座」の開設について  
-京都大学で初となる信託方式を採用した継続的な寄附講座運営-

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、今般、日本電気硝子株式会社(以下「日本電気硝子」)が国立大学法人京都大学(以下「京都大学」)に対して寄附講座「ガラス基礎科学講座」(以下、「本講座」)を開設するにあたり、継続的なガラス基礎研究の維持を可能とする枠組み「日本電気硝子基礎研究信託」の設定について、受託者として運営を開始いたしましたので、お知らせいたします。

### 1. 本件の趣旨・背景

当社は「社会的価値創出と経済的価値創出の両立」を経営の根幹に据え、社会課題解決型の新たな金融仲介機能を発揮することで、地域経済の中軸を担う自治体、大学、企業などのステークホルダーとともに、地域のエコシステム構築を目指しています。

本講座は、世界のトップレベルにある我が国のガラス科学技術をさらに深化させるとともに、ガラスの研究者や技術者となる人材の育成を行うことを目的とし、さまざまな基礎研究を安定的に実施することでガラス科学における新しい法則や原理の発見を目指すものです。

寄附講座は基本的に有期で設定されますが、基礎研究や人材育成には安定した継続的な研究体制が必要です。このため、日本電気硝子並びに京都大学は研究体制を可能な限り永続的に維持するため信託方式を採用しました。

### 2. 本件の概要

日本電気硝子は当社に信託を設定し、まず10億円を拠出します。その後、毎年日本電気硝子が寄附講座に使用された資金を補充することで、講座の運営に必要な費用を安定して提供できる体制を構築します。なお、信託方式を採用した継続的な寄附講座の運営は京都大学では初めての取り組みとなります。

寄附講座の名称	『ガラス基礎科学講座』
寄附講座設置機関	京都大学大学院工学研究科材料化専攻(京都大学桂キャンパス内)
寄附者	日本電気硝子株式会社
第1期の設置期間 および寄附講座運営費	・期間:2023年4月1日~2028年3月31日(5年間) ※日本電気硝子並びに京都大学の合意により更新可 ・運営費:5億円/期
寄附及び信託方式の概要	① 日本電気硝子は、当社に「日本電気硝子ガラス基礎研究信託」を設定し、当初資金として10億円を拠出する ② 京都大学は、毎年、講座の運営に必要な金額を引き出す

	③ 日本電気硝子は、当該信託に対し毎年1億円を上限として使用された金額の補充を行う
研究内容	<p>&lt;ガラスの基礎科学に関わる研究&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガラスの機能性向上や新機能が付与される組成の創製</li> <li>・組成と物性の相関予測</li> <li>・ガラス構造、構造緩和、ガラス転移、分相、結晶化、高温融体物性などの理解</li> <li>・原子レベルでの構造解析、高温・高圧下での物性測定技術</li> <li>・熔融、成形、加工、強化などに関わる新規プロセスの開発</li> </ul>
体制	複数の専任の特任教員を中心とした研究体制

以上